

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401012		
法人名	アトム商事株式会社		
事業所名	グループホームあすか		
所在地	札幌市西区西町北12丁目4番7号		
自己評価作成日	2023(令和5年)12月14日	評価結果市町村受理日	令和6年1月22日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170401012-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は地下鉄の駅も近く、家族も通いやすい立地となっている。コロナ渦以降面会を謝絶していたが面会室を改築し、面会が可能になっている。また感染症予防として毎日の換気や消毒液を用いた掃除を行っている。ケアで困ったことがあれば理念でもある優しさと思いやりをもってケアすることを心がけている。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和6年1月5日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあすか」は、地下鉄発寒南駅から徒歩で6分程の住宅地に立地している2階建て1ユニットの事業所である。近隣にはドラッグストアやコンビニエンスストア、公園もあり生活の利便性が高い。玄関や居間もゆったりした明るい造りで、門松や鏡餅、干支の塗り絵など季節感のある装飾が施されており家庭的な温もりが感じられる。市町村との連携では、市の補助金を活用して排泄状況を細かく把握できるAI搭載のトイレセンサーを新たに導入したり、利用者と会話や歌、体操と一緒にするコミュニケーションロボットを購入して日々のケアに役立てている。また、補助金でタブレット端末を備えて職員の事務処理を簡潔化し記録の充実につなげている。医療支援の面では、本人や家族の意向に沿って受診先を選ぶように数件の協力医療機関と連携して月2回の往診体制を整えている。家族には、医師が作成した「訪問診療記録」の写しを送り書面で健康状態を伝えている。家族への情報提供として毎月「あすか便り」を作成し、事業所や個別の様子を写真やコメントで報告している。感染症流行前は、事業所のお祭りに地域住民や中学生の太鼓部、フラダンスのボランティアの方が訪れるなど地域交流が活発に行われていた。今後も感染状況を見ながら、更に地域交流を深めていきたいと前向きに考えている事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の見やすい場所に提示し月1回の職員会議において唱和し再確認して実践につなげている。	事業所理念に「スタッフ一同、優しさと思いやりを持ってケアし、地域全体にひろげていく」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容となっている。事務所などに掲示し、入職時にも説明して全職員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表者が町内会の役員を務めている。散歩中に畑や花壇を見学しながら町内の方々と談話している。	感染症流行前は、事業所のお祭りに地域住民や中学生、ボランティアの方が訪れていた。現在は、利用者と一緒に近隣のドラッグストアやコンビニエンスストアに買い物に出かけている。今年は、感染状況を見ながらお祭りを開催したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症の勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見や助言をいただいた内容を参考にしてサービス向上に努めている。	感染症流行時は開催を控えていたが、4月から近況報告や認知症の薬剤、入居費用などをテーマに2か月ごとに会議を行っている。今後は参加できない家族の意見や質問なども事前に聞き取り、会議に反映させたいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	特にわからない事があれば市の担当者に連絡を取り相談、確認をとっている。運営推進会議等では包括支援センターの担当者より意見、助言をケアに反映している。	市役所や区役所に、請求書関係やおむつサービスの手続きなどについて相談している。市の補助金を活用してAI搭載のトイレセンサーやコミュニケーションロボット、タブレットを購入している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員には内部研修等で身体拘束をしないケアの知識と理解を深めている。現状においても日々のケアが身体拘束にならないように声かけに努めている。	マニュアルを整備し、年2回の勉強会で禁止行為11項目を確認している。玄関の鍵は安全面や防犯対策で日中も施錠しているが、利用者が閉塞感を感じないように対応している。3か月ごとに開催している身体拘束廃止委員会の議事録を更に充実させ、職員の確認欄も整備したいと考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、その内容を内部研修で生かし職員全員に知識と理解を深めている。入浴等を通して傷や変色等がないか確認している。		

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は外部研修等に参加し知識を得ていた。現在は利用されている方がいません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間をかけて説明し、疑問や質問等がある場合には説明し不安等を解消している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプランの更新等の際に意見や要望、提案など聞きサービス内容に反映している。毎月個人毎の様子、健康状態等を記載したお便りを送付している。	電話や面会時、運営推進会議の機会に家族の意見や要望を聞き取り、内容に応じて介護記録などに記入している。毎月「あすか便り」を発行し、事業所と個人の様子を写真やコメントで伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回職員会議にて職員の意見、要望、提案等を聞き、反映している。	感染症の流行で職員会議は開催していないが、申し送りや業務の中で職員の意見や要望を聞き取っている。環境整備などに職員の提案が活かされている。職員は得意な分野で係を分担している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は過重労働にならないように、人員を増やしたり介護ロボットを導入したりして工夫している。又勤務希望を聞いてくれ、休み等は希望通りの勤務を検討してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修等の参加希望には協力している。有休希望等も取りやすい環境を整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会等に参加して交流を図り、同業者からの情報を得て参考にし活かしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価（事業所全体）	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学を含め、本人、家族と面談し、不安や要望を聞き安心感に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人同様、入居前の施設見学、面談、また不安を感じる事は、いつでも対応できる体制であることを伝え安心感に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	基本的には入居当初は家族の来訪を頻回にしている。本人、家族の要望をもとに「今必要な支援」を職員で話し合い検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人との生活を共にするものと理解し、尊厳を損なわない声かけや対応を実施している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は本人を支えるチームの一員として捉え、家族の意向を支援の方針に取り入れ支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ渦でもあったため、面会や外出等は中断していた。現状徐々に緩和傾向で検討している。	家族や親族以外の方との交流は殆ど無くなっているが、自宅に帰ったり葬儀に参列した利用者もいる。職員と一緒に近くの公園やドラッグストア、コンビニエンスなどに買い物に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を見極め、食卓席等を移動するなどして1人1人が孤立しないよう工夫をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時にはお見舞いや、亡くなられた方には葬儀参列等し、終了後もフォローに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式等で事前に情報収集し本人や 家族の意向を取り入れ、ケアプランに反映している。	会話から思いや意向を把握できる利用者が多いが、状況に応じて仕草や表情から読み取ることもある。利用開始時にセンター方式シートを作成しているが、追記や更新にばらつきがみられる。	変化に応じてセンター方式シート(B-3)に追記するとともに、定期的に全員の書類を更新するよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式等でのアセスメントシートからこれまでの生活経過を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の様子は細かく記録し職員全員が把握できるようにになっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成者が主体となり、本人、家族と話し合い介護計画を作成している。急変時はその都度内容を変更して作成している。	計画作成担当者を中心に、6か月ごとに介護計画を作成している。日々の記録はタブレット端末で行い、サービス内容に関するものは「ケース」項目に記録している。今後は家族の意向を具体的に聞き取り、介護計画2表に反映させたいと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は介護計画のサービス内容と連携 されている様式となっている。本人の言動や様子を記録するように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人が今必要な支援を、家族や職員等で話し合い柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ渦期間は活用を停止していたが、今後においては買い物同行や訪問美容を活用に努める。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が納得のいく医療が受けられる、かかりつけ医の受診となっている。急変時にも敏速に対応してくれる。	3件の協力医療機関から本人や家族の意向に沿って受診先を選び、各利用者が月2回の往診を受けている。外部受診は家族対応としている。「訪問診療記録」を個別に整備し、写しを毎回家族に送っている。	

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションの看護師を利用している。主治医との連携をとり適切な診察が受けれる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナ渦前は入院時は面会を通して病院関係者と密に情報交換できていた。いまだに病院での面会禁止となっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時看取りの指針を説明し、本人、家族の意向を確認している。必要に応じ主治医、家族と話し合い機会を設け終末期のあり方を共有している。	利用開始時に「重度化した場合の対応指針」と「看取りに関する指針」を説明している。利用者の体調変化に応じて主治医、家族、事業所で方針を話し合い、看取りを行う場合は新たに同意書を作成している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	当事業所にはAEDが設置しており、使用し方学習を含めて応急手当の対応等を内部研修している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は年2回実施している。町内会の方も参加してくれている。	年2回夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、救命講習も行っている。感染症の流行により消防署や地域住民の参加はないが、今後は協力を依頼する予定である。災害時の個別対応については話し合っていない。	各種災害を想定してケア別の個別対応について職員間で話し合い、定期的に再確認するよう期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊厳を心掛けた声かけをしている。トイレ誘導時は自尊心を損なうよう配慮している。	接遇やスピーチロックに関する研修を毎年行っている。申し送りの際はイニシャルを使用し、個人情報記載の書類は事務所内に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	大まかな1日のスケジュールはあるが、本人の希望や自己決定は尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間は決まっているが、本人の希望がある場合は変更や内容を変えたり調整している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪も美容師さんの好みではなく本人の希望に沿ったヘアースタイルを実施している。		

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は好みを取り入れた食べられる量で提供している。アレルギー等の配慮もしている。	業者作成の献立を使用しているが、利用者の意向などが反映された献立となっている。誕生日にはラーメンなど好みの食事を提供している。手作りのおやつも毎日の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事摂取量、水分量は記録として残し把握している。食事・水分の形態も個々の機能に適した物を工夫しながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っており、一部介助、全介助などその人に合った支援を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表に記録し排泄パターンを把握し声かけや誘導等を行っている。	全員が昼夜共にトイレでの排泄を行っている。AI搭載のトイレセンサーを導入しており、自立している利用者の排泄状況も細かく把握することができる。個々に合わせた声かけを行い、失敗を減らして自立につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘傾向にある入居者に対しては起床時又は朝食前に牛乳を飲んでいただいたり、水分を多めに飲用している。お腹マッサージ運動などを取り入れ排便を促している。それでも解消されない場合は医師に相談し下剤での調整を図っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日2-3人入浴出来るように毎日実施している。本人の希望があれば毎日でも入浴できるようにしている。最低でも週2回程度入浴出来るように状態にあわせて実施している。	火水土日の週4日間を入浴日とし、入浴順や同性介助などの希望に沿って1人当たり週2回の入浴を行っている。以前からの習慣でシャワー浴をしている方を除き、全員が湯船に浸かっている。職員との会話も入浴の楽しみとなっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事やおやつ以外の時間には、各自自室や居間で思い思いに過ごされている。夜間の睡眠の妨げにならないように午後においてはレクリエーションを取り入れ起きている時間を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が処方される度に薬局からの説明書は個人のファイルに綴ってあるのでいつでも確認できるようになっている。薬の変更があった場合には連絡ノートで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に本人の特技や好んでしていたことの情報を聴取し継続して実施できるように支援している。レクでは早口言葉や歌、塗り絵、パズル等を行い気分転換に心掛けている。		

グループホーム あすか

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍以来集団外出や買い物ツアー等はいまだ控えている。ある程度自立できている入居者に対してはスタッフが着いて天気のいい日は町内を散歩をしている。	天候の良い日は、近所の花壇などを見ながら散歩している。ドラッグストアやコンビニエンスストアなどへの個別の買い物支援も行っている。玄関先にベンチを設置して外気浴を行うこともある。近隣公園で花見をしたり、ドライブで手稲山へ紅葉見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には個々の金銭は事業所で預かっている。小銭程度は本人持参している入居者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りは殆ど無いが、電話は本人の希望があれば繋げる支援はしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには四季折々に変え飾りつけをしている。又廊下には行事の写真や四季感のある写真等を貼っている。台所が近く料理の音や匂いがして生活感を感じて頂けている空間になっている。	大きな窓に面したリビングは日差しが差し込み明るく開放的である。ソファを多く設置し、利用者が思い思いの場所で過ごすことができる。門松や鏡餅など、季節の装飾や利用者の書初め作品が飾り付けられており、家庭的な温かみのある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間では、一人で居たい人、誰かと居たい人を見極め食卓椅子での席は配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自宅で使い慣れた物を設置していただくようお願いしている。又習慣となっていた事が継続できるように環境を整えている。	暖房、温湿度計、災害対策のヘルメットが居室に備え付けられている。使い慣れたベッドや筆筒、椅子などの家具や仏壇、アルバム、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んでいる利用者もいる。個々の生活に合わせて整理された過ごしやすい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーであらゆる箇所に手すりを設置している。トイレや洗面所は場所がわかり易く掲示し常に明るくしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあすか

作成日：令和 6年 1月 17日

市町村受理日：令和 6年 1月 22日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	23	入居の際、センター方式シートを利用しアセスメントしていたが、更新時は他のシートを利用していたためセンター方式の見直しはしていなかった。	少なくとも年1回センター方式シート(B-3)の追記を行う	①ケアプランの作成(更新時)の際には見直す ②状況変化時にはその都度見直す	1年
2	35	火災による避難訓練を年2回行っていたが、様々な災害を想定した訓練は行っていなかった。	①火災・地震・水害等の災害を想定した訓練を実施する ②入居者の個別対応を職員間で定期的に話し合う	①-a)年2回の訓練時には、火災以外の災害を想定し実施する。 ②-a)年2回の訓練実施前には、入居者個別対応になるように打合せし話し合う。 b)実際入居者を参加し実践する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。